

変則マルチアンプシステム(4)  
—FAL C90EXW の重ね合わせ—

1. 始めに

前報までは EMI DLS259、GOODMAN AXIOM80 および TELEFUNKEN L61 による重ね合わせの変則マルチアンプシステムについて報告してきましたが、今回は、FAL C90EXW の重ね合わせを実施します。

2. 重ね合わせによる変則マルチアンプシステムの試聴方法

今回は FAL C90EXW を用いて JBL4350A のマルチアンプシステムのダブルウーファァーを重ね合わせてみました。前報までと違って JBL4350A のマルチアンプシステムのスーパーツイーターを使用しないわけは、FAL C90EXW にはハイルドライバァーとパラで村田製作所のセラミックツイーター ES103A を接続しているので、JBL4350A のマルチアンプシステムのスーパーツイーターは不要としました。FAL C90EXW の駆動アンプは、しなの音蔵の 300B シングルとし、レベル合わせの都合上、プリアンプの Leak point 1 を組み合わせます。JBL4350A のマルチアンプシステムのダブルウーファァーは通常通りの結線とし、重ね合わせする方は、しなの音蔵のプリアンプから並列で Leak point 1 に入力します。

入力信号のルートは前報(1)・(2)・(3)と同様、現在の標準となっている次のルートを使用します。

EMT981 (44.1KHz) /BZT-9000→ CCV-5 (96KHz) →SWD-DA10 (192KHz)  
→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD

ここで、EMT981 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを、CCV-5 には 96KHz のクロックを、SWD-DA10 には 192KHz のクロックを供給します。また DA-3000 には ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを供給します。

3. 重ね合わせによる変則マルチアンプシステムの試聴結果

本来は、しなの音蔵のプリアンプから P&G のフェァーダァーを通して直接、しなの音蔵 300B に入力しているのを Leak point 1 を経由させた分だけ、鮮度が落ちているのはやむを得ません。そこに JBL4350A のマルチアンプシステムのダブルウーファァーを重ね合わせたわけですが、低域の量感を増強できたことは当然ですが、全帯域の鮮度が落ちているのをカバーすることはできません。また、FAL C90EXW はもともと  $f_0$  が 27Hz ですので、低域の伸びの効果もそれほどではありません。

JBL4350A の側からの変化を述べますと、JBL4350A の個性はまったく消えてしま

い、FAL C90EXW の音になってしまいます。

#### 4. まとめ

FAL C90EXW の完成度が高い分、JBL4350A のマルチアンプシステムのダブルウーファーを重ね合わせのメリットは少ないようです。

以上